特集 今、求められるコロナへの心構え

2020年は「コロナ禍」という未曽有の事態への対応に追われ続けた1年であった。「GoToトラベル」が年末年始において全国的に停止となるなど、新型コロナウイルスは依然として猛威を振るっており、当面の間は「ウィズ・コロナ社会」が続くことが予想される。そこで今回、事業所に必要な感染拡大防止対策について再確認するとともに、コロナ禍における事業活動を継続する上でのポイントを探った。

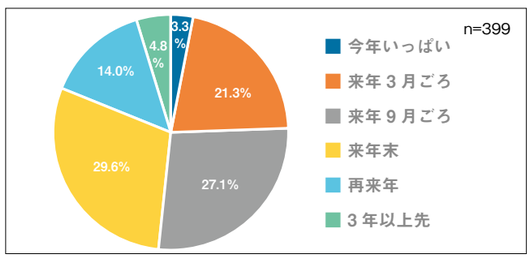
並行する“コロナ対策”と“事業活動”

福井商工会議所が10月に公表した「第4回新型コロナウイルス感染拡大による企業活動への影響調査」では、コロナ禍の終息時期について「来年（2021年）末」が29・6％、「来年9月ごろ」が27・1％と回答し、多くの事業所が今後もその影響が続くものと考えている。また、新型コロナ対策の取組みとしては「3密回避やアクリル板設置等の職場環境の改善」や「経費削減」が挙げられており、回答事業所のうち、7割以上が事業を「現行のまま継続する」としている。

第一波とされる今年3～4月の頃よりはマスクやアルコール等の感染防止アイテムや、感染状況等の情報が流通するようになり、少しずつ冷静に新型コロナウイルスと向き合うことができるようになったものの、依然、感染症が事業に及ぼす影響は決して小さくない。

福井市内のある経営者にPCR検査で陽性となった時の経験について伺ったところ「とにかく感染しないようにマスクやエタノール、ゴム手袋を準備し危機感をもって営業していたが、それでも感染した。店や自宅を特定され、事実とは異なる憶測や噂が飛び交い、誹謗中傷と風評被害に悩まされた」と沈痛な思いを吐露した。感染リスクは仕事、私生活を問わず四方八方にあり、いつ、誰が感染してもおかしくない状況にある。今回の特集では、コロナ禍における事業継続やイベント開催事例と、福井市保健所からのアドバイスを紹介する。

グラフ1 コロナ禍はいつまで続くと想定しているか

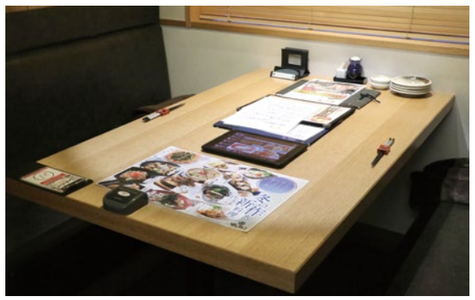


福井商工会議所「第4回新型コロナウイルス感染拡大による企業活動への影響調査」より抜粋

01 INTERVIEW

㈱ぽんた
代表取締役
齋藤　敏幸　氏

福井市で個室居酒屋やカフェ等を経営する㈱ぽんたは、新型コロナウイルスが話題になる以前から店舗のIT化を推し薦めてきた。ネット予約システムをすべての店舗で導入していたため、国の「GoToEat」キャンペーン利用でポイントが付与され、結果として消費者からネット予約が相次いだ。コロナ禍においても顧客の減少を抑えつつ、売上を確保している。



全室にタブレット端末を設置し、タッチパネルから注文ができるシステムを構築している

感染予防対策として、従業員全員に厚生労働省が推奨する接触確認アプリ「COCOA」をインストールさせた。特に臨時で他店舗にシフトが入ったり、プライベートの行動を制限しにくい学生アルバイトからの感染を防ぐため、毎日の検温結果の報告を徹底している。また、店内でも定期的な換気に加えて、顧客の入店時や個室に設置しているタッチパネルの消毒等を行っているが、あくまで県の警戒レベルを参考に対策を練っている。「『食』はエンターテインメントでもあるため、目に見える形で過剰に感染防止対策を行うと顧客も萎縮する。店舗のイメージにもこだわりながら、微調整している」と齋藤敏幸社長は説明する。

感染拡大の第三波到来により一番の書き入れ時に苦戦が予想されるが、悲観してばかりはいられない。今後については「国や県の支援策に頼るだけではいずれ経営が成り立たなくなる。常に新しいメソッドに挑戦する姿勢が大切だ。県内の飲食店はデジタル化が遅れている印象がある。我々としてはコロナで落胆することなく、さらにIT化を推進していきたい」と語った。

02 INTERVIEW

福井テレビジョン放送㈱
コンテンツ事業局次長
辰川　昇　氏

福井テレビジョン放送㈱は11月、4日間に渡る「カレー博2020」を開催した。感染防止対策として、出店者には直近2週間分の検温記録の提出を依頼し、ほかにも、マニュアルを作成・送付するだけではなく、頻繁に連絡を取るようにする等、感染拡大防止のための理解を得ることにも注力した。運営については国や県のガイドラインに従いつつ、独自の工夫を施した。

当日は約2万5千人が入場した。会場内ではテイクアウトコーナーのほかに、ドライブスルーコーナーを設けた。建物に入ることなくカレーをテイクアウトしたい方への配慮であったが、結果的にカレーの総配数の4分の1程度が利用した。また、会場内の様子をLIVE配信し、混雑状況等を確認できるようにした。コンテンツ事業局次長の辰川昇氏は「イベントに参加したいが、コロナを心配する人も多い。その人たちに対してどのように手を差し伸べるかが大切だ」とイベント開催における考え方を示した。

辰川氏は様々なイベントの開催方法が考えられると見通し、「今後も新しいイベント開催のモデルケースをどんどん提示していきたい」と意気込む。次回以降もより多くの人が心置きなく楽しむことができるように、コロナを逆手に取った新たなスタイルを模索している。

「カレー博2020」会場の様子。来場者だけでなく、出店者にも感染防止のための理解を得るため説明を行った

メカニズムを考慮し、感染リスクの軽減を

福井市保健所保健予防室の副医長を務める田村医師に新型コロナウイルスの感染経路や症状といった特徴と、感染防止のポイント、そして自身や周囲の人が感染していることが発覚した場合の適切な対応について解説いただいた。

福井市保健所 保健予防室　副医長　田村 太朗　氏

感染した際の症状と感染力

新型コロナウイルスは体内に侵入すると、通常は鼻の粘膜を中心に2～3日かけて増殖する。無症状や軽症で済む方もいるが、感染した場合、1週間以内に風邪の症状や味覚障害が現れ、遅いと2週間程度経過した時に発症し、最悪の場合、人工呼吸器の装着を余儀なくされる。そのため、報道等で喚起されている通り、濃厚接触者の方には2週間の自宅待機を要請している。

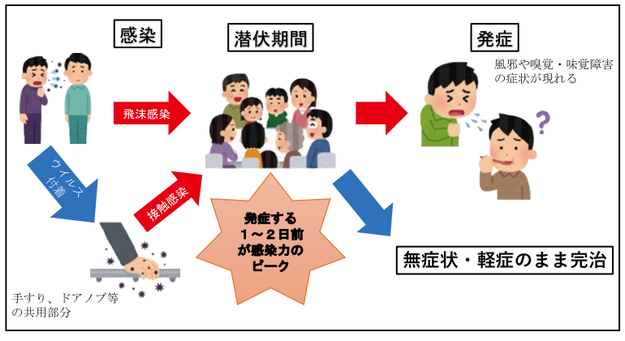
また、症状が現れてから感染しやすいインフルエンザとは異なり、新型コロナウイルスは発症の1～2日前が感染力のピークにある。発症時点ですでに他人へと感染させている可能性もあるため、日ごろからマスク着用や「3密」回避等、今後も感染防止に努めてほしい。

どうすれば感染経路を遮断できるのか？

主な感染経路として「飛沫感染」と「接触感染」が挙げられる。ウイルスを直接媒介するものは咳やくしゃみ、つば等のしぶき（飛沫）だ。まずはいかにこの飛沫が飛散・充満する状況や場面を作らないように注意するかが感染防止のポイントとなる。2メートル以上の十分な距離間隔をとり、換気を行っていれば周囲に飛沫が到達しにくくなる。マスク着用やアクリル板の設置は効果的ではあるが、いずれも隙間からの飛沫の漏れがあることに配慮したい。

また、ウイルスに汚染された物品に触れ、そのまま目や鼻を触ることで感染する「接触感染」についても注意すべきだ。手指の消毒を行うことに加えて、不特定多数の人の手が触れるドアノブや階段の手すり、ほかにも顧客が使用するタブレット端末等タッチパネルも除菌して欲しい。意識しやすい事務所のデスク回りだけではなく、トイレや喫煙所等の外部との共用スペース、休憩室や更衣室等の内部での共用スペースともに環境整備を行うことが重要だ。

（図Ⅰ）新型コロナウイルスの主な感染の流れ



万一の時はためらいなく休む

もし事業主や従業員に陽性反応が出た場合、まずは感染者と他の従業員との接触状況を確認していただきたい。保健所の聞き取り調査では、「接触者同士がお互いにマスクを着用していたか」「一定時間（15分程度）以上近距離で会話していないか」を濃厚接触者と特定する判断基準としている。

（図Ⅱ）コミュニケーションをとる時に気を付けたいこと

新型コロナウイルス感染症の初期症状はインフルエンザや風邪との区別が難しく、症状だけでは正確に診断することは困難である。たとえ軽症であっても、風邪の症状が現れた時には「休む」ことを優先的に選択すべきだ。自宅待機の判断は事業所とに委ねているが、保健所の判断基準のいずれかに該当する場合、特に新型コロナウイルスの感染リスクが高いと考えられるため、躊躇せず自宅待機するようにしてほしい。従業員の同居家族に感染者が出た場合は、ほぼ濃厚接触者に該当すると考えられ、事業所での対応同様、自主的に自宅で待機するよう事業主から呼びかける必要がある。

11月からは一般の医療機関でも新型コロナウイルス感染症の検査が可能となっているので、体調不良の時は通院する前に一度電話で問い合わせた上で、かかりつけ医もしくは最寄りの医療機関にて検査を受けていただきたい。診断の際は、発症者の発生状況のほかに、発症前2週間の行動歴・接触歴が重要な情報となるため、自身の行動の備忘録をつけておくことが望ましい。しかし、検査で陰性と判定されたとしても、完全に新型コロナウイルス感染症の可能性を否定することはできない。診断結果が何であれ、体調がすぐれない間は会社を休み、家族とも距離を取る等、感染拡大防止を念頭に置いた行動をお願いしたい。なお、自宅で待機する場合は、「部屋を分ける」「限られた人での介護」等、家庭内でも油断せず感染拡大防止対策に取り組んでいただきたい。

感染と拡大予防のための心構えを

まずは徹底して感染リスクを排除するように努めてほしい。頭ではわかっていても、この状況に慣れてくると気の緩みが生じる。特に飲酒を伴う場面や大人数・長時間で集まる時には注意が必要だ。新型コロナウイルス感染症の特徴を捉え、どのような感染経路が予想されるかシミュレーションすべきだ。

次に、万一の事態を想定し、普段から従業員同士の接触機会を減らすことができるような業務の流れを確立する等、日常の感染対策の確認を行うことが重要だ。また、この時期に体調を崩したとは言いにくいかもしれないが、感染拡大防止のためにも「無理をしない、させない」という認識を社内で共有し、休みが取りやすい環境整備・風土づくりをすることも事業活動を継続する上で、大切な取組みである。

徹底した対策と新しい事業計画の整備を

今は「ウィズ・コロナ社会」の最中にあることを自覚し、感染拡大防止の徹底と事業継続とのバランスを見極めることが重要であるが、新型コロナウイルスに感染すれば大打撃を受けることは必至だ。まずは国や県のガイドライン、保健所の指示に則り、感染拡大防止に努めていただきたい。

しかし、同時に経済を回していかなければ地域の活力は減退してしまう。コロナ禍は先行き不透明であり、長期戦を覚悟しなければならない。行政による支援策を活用しつつ、事業の見直し、転換等の対応が必要だ。

なお、福井県商工会議所連合会は発症時の対応をチャート化している。こちらもぜひ参考にしていただきたい。

新型コロナウイルス対応フロー